



日本糖尿病・肥満動物学会 NEWS LETTER

Vol.26 No.1 Jun 2023

1) 号頭言「糖尿病性神経障害の研究と私」(神谷英紀先生).....	1
2) 第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて(綿田裕孝先生).....	2
3) 第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内(水上浩哉先生).....	3
4) 若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(5) Muscle-specific AdipoR欠損マウスを用いた骨格筋におけるアディポネクチン経路の 生理的意義の解明(岩部真人先生).....	4
5) 若手研究奨励賞を受賞して(15).....	5
6) 2022年事業・会計報告.....	7
7) 2023年事業計画・予算.....	9
8) 日本糖尿病・肥満動物学会会則/賛助会員名簿.....	11

号頭言

「糖尿病性神経障害の研究と私」

神谷 英紀

愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科

この度は号頭言を書く機会を頂き感謝申し上げます。

私は、1995年に名古屋大学医学部を卒業し、その後研修医として1年間、内科医として2年間研修した後に、名古屋大学医学部第3内科に入局させていただくと同時に大学院に入学しました。当時の第3内科の教授は堀田饒先生(現在中部ろうさい病院名誉院長)で、糖尿病グループを率いていたのが私の師匠である中村二郎先生(現在愛知医科大学医学部先進糖尿病治療学寄附講座教授)でした。大学院生として私に与えられたテーマが、ライフワークとなっている糖尿病性神経障害に関する研究でした。大学院生といえども、大学病院の糖尿病診療を担当する必要があり、朝から夕方までは臨床医として働き、18時からが研究の時間で毎日夜中まで研究室で実験しておりました。学位論文の研究としては、糖尿病性神経障害の成因についてシュワン細胞を用いた細胞実験を行い、アルドース還元酵素とプロテインキナーゼC(PKC)の役割を示すことができました。動物実験では、当時の私どもの研究グループでは総合実験と称して、定期的に数百匹の糖尿病ラットを飼育し、休日にグループ全体で予定を合わせて神経だけでなく心臓・肝臓・腎臓・膵臓・網膜などの評価を流れ作業的に行い、その結果をまとめ報告するというものを行っておりました。

大学院卒業後は、2003年から2006年までアメリカ・ミシガン州のデトロイトにあるWayne State Universityに

Research fellowとして研究留学をしました。留学先の直属の上司はAnders AF Sima教授で、病理学・神経内科学を専門とし、特に糖尿病性神経障害を病理学的立場から研究されておられる先生でした。その研究室はSima教授と中国人の研究者2人と私という小さなラボでしたが、過去には日本人が2名留学していました。今もそうかもしれませんが、その頃も日本人は真面目で休日も時間を惜しまず研究するというのを期待されているはずなのですが、Sima教授はデトロイトは危ないから休みは大学に来ないように、また夜も遅くまで仕事をしないようにと言ってくれたので、(本当にそう思われていたのかはわかりませんが)私はすっかりその言葉に甘え比較的QOLの高い留学生活を送ることができました。留学中の研究内容は、引き続き糖尿病性神経障害の研究で、それを病理学的に評価することでした。主には、1型糖尿病のモデル動物であるBB-Wor ratを長期間(4か月から10か月間)飼育し、末梢神経の生理学的検査から電子顕微鏡を含めた病理学的検討を行いました。朝から晩まで動物の飼育と解剖そして神経細胞・神経線維の形態学的評価を繰り返し行い、糖尿病性神経障害の病態はdying back axonopathy(末端性軸索変性)で間違いのないことを確認しました。

留学から帰国後は、名古屋大学に戻り糖尿病・内分泌内科で若手研究者とともに研究を継続し、糖尿病性神経

障害に対するインクレチン関連薬や幹細胞を用いた再生医療の可能性を示すことができました。その後2011年に中村二郎先生の愛知医科大学へのご栄転に伴い私も一緒に異動しました。しばらくの間は、糖尿病センター・糖尿病内科の立ち上げから医局運営を行っていたため基礎研究からは遠ざかっておりましたが、その後は順調に人材

が集まり基礎研究を再度行うことができるようになりました。糖尿病性神経障害は頻度が高く、また糖尿病のある方の生活の質を低下させる合併症で、その解明および治療薬の開発は急務となっております。これからも様々な糖尿病モデル動物を用いてこの大きな課題の解決に少しでも貢献できるよう努力してきたいと思っております。

第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて

綿田 裕孝

順天堂大学大学院医学系研究科 代謝内分泌内科学

第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を2023年2月17日(金)、2月18日(土)の2日間、東京の二ツ橋大学一ツ橋講堂で開催させていただきました。本学術集会は日本糖尿病学会の分科会となつてはじめての学術集会となりました。また、参加者を増やすという試みから、あえて、東京女子医科大学、馬場園 哲也教授が世話人をつとめ、東京国際フォーラムで開催された「糖尿病学の進歩」と同時開催としました。ただ、「糖尿病学の進歩」と行き来された先生におかれましては、予算の関係で東京フォーラムの会場を使うことができずご不便をおかけしました。また、一ツ橋講堂は設備が古く、初日の開催最初のセッションからマイクの不具合が起り、途中復旧したものの、初日の最終セッションで、座長のマイクが全く機能しないという不具合が再び発生し、参加された方々には大変ご迷惑をおかけしました。この場で陳謝させていただきます。その夜、スタッフが一ツ橋講堂に設置されているオーディオ器具のコードを新しいものに取り換え、2日目は無事トラブルなく学会運営をすることができました。

1日目には、国内唯一の内分泌代謝学に関する基礎医学研究所である群馬大学生体調節研究所の先生から、研究所の紹介も兼ねたシンポジウム「あなたはまだセイ

チョウケンを知らない」が行われました。各先生が行われている最前線の興味深い研究の話聞くことができました。「多面的なin vivo解析の最前線」では、プロテオミックスの進歩と電子顕微鏡による解析の最前線に関して講演頂きました。各演者の先生からは聴講者の今後の研究に役立つ講演をいただきました。

2日目は、「糖尿病学、免疫学からみたNODマウス」と題したセッションで、NODマウスの樹立の経緯や特徴、そこから考える1型糖尿病の成因に対する研究成果と、自己免疫疾患モデルとして本モデルマウスを用いた研究成果の講演があり、NODマウスに関して造詣を深めることができました。特別公演は世界においてオートファジー研究をリードされている東京大学の水島昇教授から、オートファジーに限らず、さまざまなタンパク分解に関する進歩に関して特別講演を行っていただきました。

参加者は総勢101名で、どのセッションでも活発な討論が行われ盛会のうちに終わりました。トラブルもございましたが、学術集会長としては今回の講演の内容のレベルが大変高かったことを自負しております。本学会でご講演頂いた先生方、座長をお引き受けいただいた先生方、参加者の方々、大変ありがとうございました。

第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会のご案内

日 時：令和6年(2024年)3月15日(金)・16日(土)

開催地：弘前大学創立50周年記念会館

〒036-8224青森県弘前市文京町1番地 Tel:0172-39-3490

URL:www.hirosaki-u.ac.jp

会 長：水上 浩哉(弘前大学院医学研究科分子病態病理学教授)

ホームページ：<https://jsedo.jp/jsedo37/>

プログラム内容：

特別講演

演 者 片桐秀樹教授(東北大学大学院 医学系研究科糖尿病代謝内科学)

演 者 伊庭靖弘准教授(北海道大学 理学研究院 地球惑星科学部門)

その他

お問い合わせ先：

●主催事務局

弘前大学院医学研究科分子病態病理学

〒036-8562 青森県弘前市在府町5

事務局長：竹内祐貴

●運営事務局

第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会運営事務局

株式会社コンベンション・ラボ内

〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本6-4-12 吉川ビル4F

E-mail:jsedo37@conventionlab.net

Muscle-specific AdipoR欠損マウスを用いた骨格筋における アディポネクチン経路の生理的意義の解明

岩部 真人

日本医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝・腎臓内科学分野

この度は「若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告」におきまして執筆の機会を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。私は、2009年に岡山で開催されました第23回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会で若手研究奨励賞を受賞致しました。

運動療法が生活習慣病の根本的な予防法・治療となることは周知の事実ですが、運動による糖・脂質・エネルギー代謝改善メカニズムについては未だ多くが明らかになっていません。肥満に伴って、脂肪細胞から分泌される生理活性物質アディポネクチンおよび各臓器でのアディポネクチンの受容体(AdipoR) シグナルが低下することがメタボリックシンドローム・2型糖尿病の原因になることを東京大学糖尿病・代謝内科の門脇孝先生、山内敏正先生が明らかにしていました。当時、世界的に、アディポネクチンによる糖・脂質代謝の主要な標的臓器は肝臓であると考えられていた中、私は、骨格筋における代謝経路の重要性を見いだしました。そこで、新たに作製した骨格筋特異的AdipoR1欠損マウスを解析し、骨格筋におけるAdipoR1が「細胞内カルシウム濃度を上昇し、CaMKK経路を活性化すること」および「AMPK/SIRT1を活性化すること」を発見し、アディポネクチン/AdipoR1経路が運動模倣シグナルを有することを明らかにし、本学会で発表し、論文化することも出来ました(*Nature*, 2010)。これらの研究成果に基づき、AdipoRを活性化する方略が運動療法の代替になると考え、教室の岩部(岡田)美紀先生が中心となって運動を模倣する効果のあるAdipoR

活性化低分子化合物の取得に成功しました(*Nature*, 2013)。さらにヒト化AdipoRマウスを作製し、この化合物が実際に生体内においてヒトAdipoRを活性化し、運動模倣シグナルを介して肥満・2型糖尿病モデルマウスの糖・脂質・エネルギー代謝を改善し、また筋持久力を増加することを明らかにしました(*Communications Biology*, 2021)。そして現在は、ヒト化AdipoRマウスなどを用いて化合物のヒトへの最適化を行っています。

そのような折りに、2022年5月に日本医科大学に異動致しました。日本医科大学では新たな仲間にも恵まれ、これまでの成果を発展させた運動の本質に迫る研究にチャレンジしています。その一端として筋肉から分泌される新規マイオカインのひとつExercise-induced protein derived from muscle 1 (EXPM1)を同定し、運動によるエネルギー代謝改善メカニズムの一部が分かってきました(未発表)。さらにこのEXPM1は、運動量に比例して血中濃度が上昇することから運動バイオマーカーとしての活用も期待されています。現在は、EXPM1欠損マウスを用いてEXPM1の生理的・病態生理学的意義を明らかにすると同時に、臨床応用に向けてヒトのEXPM1測定系を確立し最適化しています。

教室の若い先生達が面白い実験結果を携えて、近い将来、本学会の若手研究奨励賞に挑戦することも楽しみとしながら、ともに励んでおります。引き続きご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

若手研究奨励賞を受賞して ⑮

膵β細胞におけるUFMylationの病態生理学的意義の検討

鶴澤 博嗣

順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学講座

この度は第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、皆様に厚く御礼申し上げます。所属研究室では膵β細胞機能不全の発症・進展機構に関する研究を行っており、私はタンパク翻訳後修飾であるUFMylationに着目しています。膵β細胞特異的にUFMylationが欠損するUFM1-βKOマウスを作製したところ、このマウスでは耐糖能が悪化することを見出しました。組織学的にはβ細胞容積が減少しており、細胞死の増加および脱分化・分化転換が生じている可能性があります。また、UFM1-βKOマウスの膵島では小胞体の形態異常が生じており、小胞体ストレスの蓄積が示唆されます。これらの結果から、UFMylationは膵β細胞の恒常性や機能維持に重要な役割を果たしていると考えられます。今後は、UFMylationの制御を介した膵β細胞保護を目的とする治療法の開発を目指します。

今回の受賞を励みに一層の精進を重ねる所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。最後に、綿田裕孝教授、西田友哉准教授をはじめ共同研究者の皆様に感謝申し上げます。

低栄養性脂肪肝における骨格筋FoxOsシグナルの役割の解明

大藪 葵

京都府立大学 生命環境科学研究科 分子栄養学研究室

この度は、第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次集会におきまして若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は亀井康富教授のご指導のもと、一貫して「骨格筋研究」に励んでまいりました。私たちが研究対象にしている「骨格筋」は、加齢やがんなどの疾患において萎縮し、これが易疲労による身体活動量の低下や虚弱・フレイルの原因、さらには寿命にまで影響を与えることが明らかになってきました。私たちの研究室では、骨格筋のFoxOsシグナルが筋萎縮を引き起こすことを発見していました。しかしながら、個体全身レベルでの骨格筋FoxOsシグナ

ルの役割については不明なままでした。今回の受賞対象となった研究では、骨格筋FoxOsシグナルが飢餓時の脂肪肝の発症を抑制する生理的役割を果たすことを明らかにし、脂肪肝の発症における新しい生体内防御機構の存在の手がかりを得ることができました。今回の受賞を励みに、ヒトの健康長寿に少しでも貢献できるような研究ができるよう努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

膵β細胞におけるmTORC1活性化が膵島可塑性に及ぼす影響の検討

清家 雅子

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学

この度は、第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において若手研究奨励賞を賜りました。会長の綿田裕孝先生をはじめ、選考委員の先生方、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

私たちは糖尿病状態のヒト膵島でのmTORC1活性化に着目し、mTORC1の恒常的活性化が膵β細胞分化に与える影響について調べ、β細胞の可塑性と関連した膵β細胞量減少機序の解明を目指しました。今回mTORC1が恒常的に活性化しているβTSC2 KOマウスを用い、β細胞の未成熟化、高週齢ではβ細胞由来の細胞でのPtf1a、アミラーゼ発現を確認しました。以上よりmTORC1の恒常的活性化は、膵β細胞の未成熟化、高週齢期の外分泌細胞への分化転換を誘導し、膵β細胞量減少に関与することを明らかにしました。今後は膵β細胞の未成熟化から分化異常をきたす機序の検討を通して新規のβ細胞量調節機構を解明し、糖尿病発症、進展のメカニズムを明らかにしたいと考えております。

今回の受賞を励みに一層の研鑽と精進を重ねる所存です。最後に、ご指導いただきました小川渉教授、浅原俊一郎先生をはじめ共同研究者の皆様に心より感謝申し上げます。

褐色脂肪組織のPGC-1αは個体レベルのエネルギー消費の雌雄差に関与している

竹内 彬

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 分子内分泌代謝学分野

この度は第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において若手研究奨励賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。学術集会長の綿田裕孝先生をはじめ、選考委員の先生方、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。我々は糖尿病や肥満症等の代謝疾患における

性差のメカニズムの解明を目的として研究を進めており、その一環として雌性の褐色脂肪組織がもつ機能的優位性に着目し解析を進めて参りました。本研究の中で我々は、雌性の褐色脂肪組織のPGC-1 α がその高い熱産生機能の制御に非常に重要な役割を果たし、かつそれが全身レベルのエネルギー代謝にまで影響を及ぼすことを見出しました。またこの雌性褐色脂肪組織におけるPGC-1 α の機能はエストロゲンシグナルと相互依存的な関係にあることも同時に見出しました。この知見が代謝における性差のメカニズムの一端を担っていると考え、今後もさらなる追究を目指し精進して参りたいと考えております。最後に、本研究に多大なるご指導を賜りました山田哲也教授、辻本和峰先生をはじめ、共同研究者の先生方に心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

SIRT1の腸管内分泌細胞における制御メカニズムの解明

三浦 雅臣

東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科

この度は、第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。学術集会会長の綿田 裕孝先生、選考頂きました諸先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃よりご指導頂いております山内 敏正先生、五十嵐 正樹先生をはじめ、多くの先生方に深く感謝申し上げます。

私たちは、腸管上皮や腸管内分泌細胞におけるSIRT1の役割について、ノックアウトマウスや腸管オルガノイドを用いて解明を行ってまいりました。腸管上皮SIRT1ノックアウトマウスでは、腸管内分泌細胞が増加し、その結果、GLP-1分泌が増え糖代謝が改善しておりました。このメカニズムについて解析を行い、腸管幹細胞から内分泌細胞に分化する過程で、SIRT1が重要な役割を果たす可能性を明らかにしました。今後も、長寿遺伝子とも呼ばれるSIRT1や、老化の生理的な意義や現象について、さらに研究を深めていければと考えております。

今回の受賞を励みに一層の精進と研鑽を重ね、社会に貢献することを目指す所存でございます。今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年「日本糖尿病・肥満動物学会」受賞者報告

学会賞米田賞:

小川 佳宏(九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野)
「遺伝子操作マウスを用いた肥満関連疾患の分子病態に関する研究」

研究賞:

藤坂 志帆(富山大学学術研究部医学系第一内科)
「肥満インスリン抵抗性における脂肪組織M1/M2マクロファージおよび腸内細菌叢の意義」

若手研究奨励賞:

鶴澤 博嗣(順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学講座)
「膵 β 細胞におけるUFMylationの病態生理学的意義の検討」

大藪 葵(京都府立大学 生命環境科学研究科 分子栄養学研究室)
「低栄養性脂肪肝における骨格筋FoxOsシグナルの役割の解明」

清家 雅子(神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学)
「膵 β 細胞におけるmTORC1活性化が膵島可塑性に及ぼす影響の検討」

竹内 彬(東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 分子内分泌代謝学分野)
「褐色脂肪組織のPGC-1 α は個体レベルのエネルギー消費の雌雄差に関与している」

三浦 雅臣(東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科)
「SIRT1の腸管内分泌細胞における制御メカニズムの解明」

2022年事業・会計報告 (2022年1月1日～12月31日)

1. 庶務関係報告

1) 会員の動向

	2021年末	新入会	退会	物故会員	復会会員	2022年 12月末日	増減
正会員	239	11	-18 ※	0	1	233	△ 6
学生	49	9	-2	0	0	56	7
団体会員	1	0	0	0	0	1	0
賛助会員	11	0	0	0	0	11	0
名誉会員	22	0	0	-1	0	21	△ 1
合計	322	20	-20	-1	1	322	0

2) 諸会議

●常務理事会

第1回：2022年3月9日（於：ZOOMオンライン会議）

第2回：2022年8月5日（於：ZOOMオンライン会議）

第3回：2022年11月1日（於：ZOOMオンライン会議）

●理事会・評議員会（合同開催）

第1回：2022年5月21日（於：ZOOMオンライン会議）

●総会

第1回：2022年5月22日（於：ZOOMオンライン会議）

●産学協議会

第1回：2022年6月24日（於：ZOOMオンライン会議）

●将来計画ワーキンググループ

第1回：2022年5月22日（於：ZOOMオンライン会議）

2. 会計関係報告

科 目	予 算 額 (a)	決 算 額 (b)	差 異 (c)=(a)-(b)	備 考
収入の部				
1.会費収入	2,366,000	1,592,000	774,000	
1) 正会員会費収入	1,195,000	805,000	390,000	5,000円×161名
2) 学生会員会費収入	73,500	31,500	42,000	1,500円×21名
3) 団体会員会費収入	10,000	10,000	0	10,000円×1社
4) 賛助会員会費収入	550,000	450,000	100,000	50,000円×9社(9口)
5) 過年度未収会費収入	537,500	290,500	247,000	正会員5,000円×56名、学生会員1,500円×7名
6) 次年度前受会費収入	0	5,000	△ 5,000	5,000円×1名
2. 助成金（鈴木万平糖尿病学国際交流財団）	1,000,000	1,000,000	0	
3. 雑収入（預金利息）	0	8,011	△ 8,011	
当期収入合計 (A)	3,366,000	2,600,011	765,989	
前期繰越収支額 (B)	7,420,398	7,420,398	0	
収入合計 (C=A+B)	10,786,398	10,020,409	765,989	
支出の部				
1. 印刷費				
ニュースレター編集・印刷費	300,000	330,000	△ 30,000	Vol.25, No.1 No.2、No.3（3回）
挨拶状コピー代	300,000	144,075	155,925	会費請求、総会案内状
2. 会議費	300,000	220,000	80,000	常務理事会3回、理事会・評議員会1回 各種委員会2回
3. 通信費	100,000	113,322	△ 13,322	年会費請求、総会案内状等
4. 学会運営補助金	2,000,000	2,000,000	0	第35回、第36回年次学術集会
5. 事務用品費	50,000	0	50,000	
6. 旅費交通費	50,000	26,600	23,400	第35回年次学術集会
7. 名簿管理・事務代行費（株創新社）	330,000	330,000	0	事務委託費22,000円×12 か月 年次学術集会月 66,000円×1 か月
8. ホームページ維持・管理・更新費（株創新社）	264,000	264,000	0	22,000円×12 か月
9. 学会賞関連	1,200,000	1,063,872	136,128	2021年、2022年授与分
10. 振込手数料	30,000	42,483	△ 12,483	支払手数料、他
11. 予備費	500,000	250,000	250,000	ホームページリニューアル作業費
当期支出合計 (D)	5,424,000	4,784,352	639,648	
次期繰越収支差額 (E=C-D)	5,362,398	5,236,057	126,341	
支出合計 (F=D+E)	10,786,398	10,020,409	765,989	

3. 年次学術集会関係報告

1) 年次学術集会の開催

第35回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催
 日時: 2022年5月21日(土)・22日(日)
 開催形式: WEB開催
 会長: 山田 祐一郎(関西電力病院)

2) 若手研究奨励賞受賞者(6名)

- 稲葉 有香
 (金沢大学新学術創成研究機構)
 「脂肪肝での細胞死様式変化におけるATF3の重要性」
- 井上 亮太
 (群馬大学生体調節研究所代謝疾患医学分野)
 「膵β細胞におけるUCP2およびアルドラーゼ Bを介したインスリン分泌障害機構の解明」
- 今森 真
 (神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学)
 「脂肪組織のPDK1-FoxO1経路とNASHを繋ぐメカニズムの解析」
- 大熊 英之
 (山梨大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科)
 「微小管捕捉因子PHLDB1の脂肪蓄積と肥満関連代謝障害における病態生理学的意義」
- 遅野井 祥
 (弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座)
 「RAGEシグナルにより活性化された炎症性マクロファージは糖尿病性神経障害を発症・進展させる」
- 松下 真弥
 (国立国際医療研究センター研究所分子糖尿病医学研究部)
 「インスリン抵抗性下において Irs2 遺伝子のアンチセンス RNA が脂肪肝の病態形成に寄与するメカニズムの解明」

4. ニュースレター関係報告

Vol.25, No.1掲載内容(5月31日発行)

- ・後藤由夫初代会長追悼文: 八木橋操六
- ・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(2)
 グルコキナーゼ活性化薬が糖代謝と膵β細胞量に及ぼす影響: 中村昭伸
- ・第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内

Vol.25, No.2掲載内容(8月31日発行)

- ・号頭言: 植木浩二郎
- ・第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・若手研究奨励賞を受賞して(14)
- ・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(3)
 ガラニン様ペプチドは内因性の発熱物質である: 影山晴秋

Vol.25, No.3掲載内容(11月30日発行)

- ・号頭言: 成瀬桂子
- ・第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催にあたって: 綿田裕孝
- ・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(4)
 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質(IRS) 2の役割の解明: 窪田哲也

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞関係報告

1) 受賞者一覧

- 学会賞「米田賞」:
 寺内 康夫
 (横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学)
 「遺伝子改変動物を用いた糖尿病・代謝疾患の病態の解明と治療法の創出」
- 研究賞:
 岩部 美紀
 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
 「遺伝子改変マウスを用いた新規糖尿病治療薬創製」

2) 2023年 学会賞各賞の募集の実施

6. ホームページについて

1) ホームページアクセス数(ページビュー)

1月	873	7月	3,252
2月	2,275	8月	3,762
3月	2,170	9月	4,003
4月	2,514	10月	4,247
5月	6,174	11月	3,957
6月	3,424	12月	3,934

2) 更新内容

- ・年次学術集会について(第34回、第35回順延のお知らせ)
- ・お知らせページ
- ・学会賞各賞募集ページ
- ・ニュースレターページ

3) その他

- ・ホームページリニューアルについて(2月16日実施)
- ・バナー広告募集の推進について
- ・メール配信の実施(更新案内など)
- ・メールアドレス登録の推進
- ・その他

2023年事業計画・予算 (2023年1月1日～12月31日)

1. 庶務関係

- 1) 役員改選について
2) 日本糖尿病学会の分科会について
3) 会員関係 会員の増強について
4) その他

2. 会計関係

- 1) 2023年予算の施行

科 目	2023年 予算額 (a)	前 年 予算額 (b)	差 異 (c)=(a)-(b)	備 考
収入の部				
1. 会費収入	2,216,500	2,366,000	△ 149,500	
1) 正会員会費収入	1,165,000	1,195,000	△ 30,000	5,000円×233名
2) 学生会員会費収入	84,000	73,500	10,500	1,500円×56名
3) 団体会員会費収入	10,000	10,000	0	10,000円×1社
4) 賛助会員会費収入	550,000	550,000	0	50,000円×11社(11口)
5) 過年度未収会費収入	412,500	537,500	△ 125,000	正会員5,000円×72名、学生会員1,500円×35名
6) 次年度前受会費収入	△ 5,000	0	△ 5,000	5,000円×1名
2. 助成金(鈴木万平糖尿病学国際交流財団)	3,000,000	1,000,000	2,000,000	日本糖尿病学会、鈴木万平糖尿病財団
3. 雑収入(預金利息)	0	0	0	
当期収入合計 (A)	5,216,500	3,366,000	1,850,500	
前期繰越収支額 (B)	5,236,057	7,420,398	△ 2,184,341	
収入合計 (C=A+B)	10,452,557	10,786,398	△ 333,841	
支出の部				
1. 印刷費				
ニュースレター編集・印刷費	250,000	300,000	△ 50,000	Vol.26, No.1、No.2
挨拶状コピー代	300,000	300,000	0	会費請求、総会案内状、封筒増刷
2. 会議費	300,000	300,000	0	年3回開催
3. 通信費	100,000	100,000	0	ニュースレター、年会費請求、総会案内状等
4. 学会運営補助金	3,000,000	2,000,000	1,000,000	第36回、第37回年次学術集会
5. 事務用品費	50,000	50,000	0	
6. 旅費交通費	50,000	50,000	0	事務局出張費
7. 名簿管理・事務代行費(株創新社)	330,000	330,000	0	事務委託費22,000円×12か月 年次学術集會月 66,000円×1か月
8. ホームページ維持・管理・更新費(株創新社)	264,000	264,000	0	22,000円×12か月
9. 学会賞関連	800,000	1,200,000	△ 400,000	
10. 振込手数料	30,000	30,000	0	支払手数料、他
11. 予備費	500,000	500,000	0	
当期支出合計 (D)	5,974,000	5,424,000	550,000	
次期繰越収支差額 (E=C-D)	4,478,557	5,362,398	△ 883,841	
支出合計 (F=D+E)	10,452,557	10,786,398	△ 333,841	

3. 年次学術集会関係

- 1) 年次学術集会の開催

第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

日 時：2023年2月17日(土)・18日(日)

会 場：一橋大学一橋講堂

会 長：綿田 裕孝

(順天堂大学大学院医学研究科代謝内科学講座)

・第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催にあたって：水上浩哉

・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(6)

脂肪組織M1/M2マクロファージとインスリン感受性の

関連についての検討：藤坂志帆

※内容や執筆者に関しましては、都合により変更になる場合もございます。

4. ニュースレター関係

- ニュースレターの発行

年2回発行とする

「日本糖尿病・肥満動物学会」ニュースレター Vol.26, No.1

掲載内容(案)

・号頭言：神谷英紀

・第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を

終えて：綿田裕孝

・第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内

・若手研究奨励賞を受賞して(15)

・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(5)

Muscle-specific AdipoR欠損マウスを用いた骨格筋にお

けるアディポネクチン経路の生理的意義の解明：岩部真人

「日本糖尿病・肥満動物学会」ニュースレター Vol.26, No.2

掲載内容(案)

・号頭言：横井伯英

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞 関係

- 1) 受賞者一覧

学会賞「米田賞」

小川 佳宏 (九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野)

「遺伝子操作マウスを用いた肥満関連疾患の分子病態に

関する研究」

研究賞

藤坂 志帆 (富山大学学術研究部医学系第一内科)

「肥満インスリン抵抗性における脂肪組織M1/M2マクロ

ファージおよび腸内細菌叢の意義」

- 2) 2024年 学会賞各賞の募集の実施

6. その他

2023年・2024年役員・評議員名簿

理事長	寺内 康夫				
副理事長	稲垣 暢也				
常務理事	窪田 直人(庶務担当) 水上 浩哉(編集担当) 綿田 裕孝(会計担当)				
理事	小川 佳宏	神谷 英紀	中村 昭伸	成瀬 桂子	松本 道宏
	箕越 靖彦	山田祐一郎			
監事	白川 純	横井 伯英			
評議員	赤澤 論	稲垣 暢也	井上 郁夫	井上 啓	井上 亮太
	今井 淳太	岩部 美紀	植木浩二郎	尾池 雄一	小川 佳宏
	小倉 淳郎	小野 啓	影山 晴秋	片桐 秀樹	神谷 英紀
	亀井 康富	窪田 哲也	窪田 直人	三五 一憲	四方 賢一
	白川 純	菅波 孝祥	篁 俊成	田口 明子	竹ノ谷文子
	寺内 康夫	富樫 優	戸邊 一之	中村 昭伸	成瀬 桂子
	野本 博司	原田 範雄	藤谷与士夫	藤本 新平	益崎 裕章
	松本 道宏	水上 浩哉	箕越 靖彦	安田 尚史	山田 哲也
	山田祐一郎	横井 伯英	和田 淳	綿田 裕孝	

学会からのお知らせ

日本糖尿病・肥満動物学会は、「一般社団法人日本糖尿病学会」より承認を受け、2023年2月18日より分科会となりましたことをご報告申し上げます。基礎研究の進歩をはかるべく、今後は日本糖尿病学会と本会が協力し、糖尿病学の発展に尽くしていきたいと考えておりますので、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

日本糖尿病・肥満動物学会 会則

(名 称)

第1条 本会は、一般社団法人日本糖尿病学会の分科会で、日本糖尿病・肥満動物学会（英文ではJapan Society of Experimental Diabetes and Obesity : SEDO）と称する。

(目 的)

第2条 本会は糖尿病・肥満動物の研究を通じて糖尿病をはじめ肥満、脂質異常症、高血圧症、動脈硬化などに関する学理および応用の研究についての発表、知識の交換、情報等の提供、啓蒙活動を行うことにより、医学、実験動物学、栄養学、薬学等の進歩をはかり、もってわが国における学術の発展と国民の健康増進に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術集会等の開催
- (2) 会誌、書籍、資料等の刊行
- (3) 研究の奨励および研究業績の表彰
- (4) 国内外の関係学術団体との連絡および提携
- (5) その他、産学協議会の設置ほか当学会の目的を達成するために必要な事業

(会 員)

第4条 本会の会員は次の通りとし、正会員の過半数は、一般社団法人日本糖尿病学会の会員とする。

1. 正 会 員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した個人
2. 学生会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した学生
3. 名誉会員 本会の発展に尽し、学術上顕著な功績のあった者で、理事会が推薦し、評議員会の議を経て総会で承認された者
4. 団体会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した団体
5. 賛助会員 本会の目的、事業を賛助する法人または団体

(入退会)

第5条 本会の会員になろうとする者は当該年度の会費を添えて所定の申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。ただし、名誉会員に推荐された者は入会の手続きを要せず、別に定める手続きを経、かつ本人の承諾をもって会員となるものとする。

2. 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届けを提出し、理事会の承認を得なければならない。

(会 費)

第6条 本会の会費は別に定める。

2. 名誉会員は会費を納めることを要しない。
3. 会費は前納するものとする。前納した会費はいかなる理由があってもこれを返却しない。

(資格の喪失)

第7条 会員は次の理由によって、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 禁治産若くは準禁治産の宣告を受けたとき
- (3) 死亡し、若くは失跡宣告を受け、または本会が解散したとき
- (4) 除名されたとき
- (5) 会費を3年以上滞納したとき

(役 員)

第8条 本会には次の役員をおく。

理 事 10名以上15名以内〔うち理事長1名、副理事長1名、常務理事（庶務、会計、編集）〕

年次学術集会長 1名

監 事 2名

(役員を選任)

第9条 理事および監事は、理事会が正会員および賛助会員（登録者）から推薦し、評議員会の承認を得た上で、総会で選任する。ただし、賛助会員からの理事数は正会員からの理事数の3分の1を超えないものとする。

2. 理事は互選で理事長および副理事長、常務理事を定める。
3. 理事および監事は、兼務することができない。
4. 年次学術集会長は理事会が正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。理事は年次学術集会長を兼務することができる。
5. 監事は理事会において正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。

(役員の仕事)

第10条 理事長は本会の業務を総理し、本会を代表する。

2. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときは職務を代行する。
3. 理事は理事会を組織し、この規則に定めるもののほか、常務理事会からの提案事項その他を審議する。
4. 常務理事は理事長および副理事長とともに常務理事会を組織し、本会の実務にあたる。
5. 年次学術集会長は年次学術集会の会長を務める。必用に応じて常務理事会および理事会に出席して意見を述べることができる。
6. 監事は本会の業務および財産状況を監査し、これを理事会および総会に報告する。

(役員任期)

第11条 役員任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。ただし、年次学術集会長の任期は1年とし、再任は認めない。

2. 補欠または増員によって選出された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
3. 役員はその任期終了でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

(評議員の選任)

- 第12条 本会には評議員をおく。
2. 評議員は正会員の中から理事会が推薦し、総会の承認を得て、理事長が任命する。
 3. 評議員の任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。
 4. 評議員は評議員会を組織して本会則に定める事項を行うほか、理事会の諮問があった事項、その他必要と認める事項について助言する。

(会議)

- 第13条 定期総会は毎年1回開く。ただし、理事会が必要と認めるとき、または正会員の5分の1以上の要請があったときは、臨時総会を開くことができる。
2. 総会は会員の5分の1以上（委任状を含む）の出席をもって成立する。
 3. 総会の議決は出席者（委任状を含む）の過半数をもって決する。

- 第14条 理事会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または理事の3分の1以上から理事会招集の要請があったときは、理事長は20日以内に招集しなければならない。
2. 理事会の議長は理事長とする。
 3. 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ会議を開き、審議することができない。
 4. 理事会の議事は出席理事の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
 5. 重要な事項の議事は、一般社団法人日本糖尿病学会の承認を得ることとする。

- 第15条 常務理事会は理事長が招集し、毎年3回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または常務理事の3分の1以上から常務理事会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。
2. 常務理事は庶務、会計、編集等の役割分担を行い、実務を行う。

- 第16条 評議員会は毎年1回理事長が招集する。
2. 評議員会の成立および議決等は理事会に準じて行う。

- 第17条 本会に産学協議会をおく。
2. 産学協議会は本学会と産業界を取り巻く問題について意見を交換し、本会の目的を達成するための

の研究奨励および事業等について提言する。

3. 産学協議会は理事長、副理事長、常務理事および賛助会員から選出された若干名のものによって構成する。
4. 産学協議会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または産学協議会委員の3分の1以上から産学協議会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

(会計)

- 第18条 本会の運営は会費その他の収入をもって充てる。
2. 本会に対する寄付金は理事会の決議を経て受理する。
 3. 本会の会計および事業年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(会則の変更)

- 第19条 本会則を変更するときは、理事会の議を経て、総会の承認、および一般社団法人日本糖尿病学会の承認を得るものとする。

(事務局)

- 第20条 本会の事務局は、株式会社創新社内に置く。

(付則)

1. 本会則は平成19年2月10日より施行する。
平成20年2月9日 改定（第12条3項変更）
平成21年2月14日 同（第2条変更）
平成25年2月23日 同（第7条変更）
平成27年2月14日 同（第9条変更）
令和5年2月18日 同（第1条、第4条、第14条、第19条変更）
2. 本会の会費は次の通りとする。
正会員 5,000円
学生会員 1,500円
団体会員 10,000円
賛助会員 1口50,000円
3. 現在の幹事11名は、全員日本糖尿病・肥満動物学会の理事とする。
4. 本会は、会則を新たにして、これまでの日本糖尿病動物研究会を日本糖尿病・肥満動物学会として継続するもので、平成19年2月10日現在の日本糖尿病動物研究会のすべての財産を受け継ぐものとする。

賛助会員(2023年6月現在)

EPトレーディング株式会社、小野薬品工業株式会社、株式会社三和化学研究所、ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社、田辺三菱製薬株式会社、日本エスエルシー株式会社、日本クレア株式会社、富士フィルムワコーシバヤギ株式会社、ノボ ノルディスクファーマ株式会社、株式会社森永生化学研究所

日本糖尿病・肥満動物学会

Vol.26 No.1 Jun 2023

発行日：2023年6月1日
 発行人：日本糖尿病・肥満動物学会理事長 寺内 康夫
 編集人：水上 浩哉
 編集及び学会事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11(株)創新社内 TEL 03-5521-2881/FAX 03-5521-2883
 URL <http://jsedo.jp/> E-mail info@jsedo.jp
 会員専用ページ ID:jsedo PW:member